

家庭数

令和元年11月6日
(2019年)

保護者の皆様へ

吹田市立吹田第六小学校
校長 田淵 久美子

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の分析について

全国の児童・生徒の課題改善に向けた教育及び教育施策の成果と課題を検証し、児童・生徒の学力及び学習状況の改善を図るために、6年生を対象として、『全国学力・学習状況調査』が本年4月に実施されました。9月上旬には自らの学習到達状況を正しく把握するため、個人票とともに、問題用紙と正答例をあわせてお返ししました。吹田市教育委員会においても、今回実施した調査についての成果および課題・問題点を分析し、吹田市教育委員会のホームページに掲載されております。

この調査は、小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、今年度の実施教科は国語・算数の2教科ですが、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

全国における調査を客観的に分析することにより、どのような指導形態がより効果的であるかをしっかりと見極め、学校全体あるいは小学校・中学校における連続した取り組みとなるよう、具体的な指導法の工夫改善を図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にして頂きますようお願い致します。

1 教科に関する調査結果の分析

(1) 国語

《概要》

★すべての領域で全国値を下回っている。

《各領域における成果と課題》

話すこと・聞くことについて

全国値を下回っている。

- 必要な情報を得るために、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることに課題がある。

書くことについて

全国値を下回っている。

- 図やグラフなどを用いた目的を捉えることに課題がある。
- 情報を相手にわかりやすく伝えるための、記述の仕方を工夫することに課題がある。

読むことについて

全国値を下回っている。

- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題がある。
- 目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むことに課題がある。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

全国値を下回っている

- 文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことに課題がある。
- ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることに課題がある。

◇国語科における成果と今後の指導改善点

基礎学力に課題があります。基礎学力を身に付けるためには、まず相手の話をしっかりと聴くことが肝心です。また、どの領域においても無回答率が目立ちます。最後まであきらめず、学習に取り組む姿勢が大切です。

相手に分かりやすく伝わるよう、目的や意図に応じて書くことに課題があり、文章を読み取る力の育成が必要です。

上記2点を国語科における重点課題と考え以下の改善を図ります。

児童自身が主体的・対話的に学習に取り組めるよう、今年度の努力目標である『「つながる 広がる 高めあう」～子どもたちのコミュニケーション力を高める指導法の研究～』のさらなる研究を続けます。

言語活動や表現活動を取り入れ、充実感や達成感から自信につながるような、教育活動を行います。

物語教材においては、同じ作者の作品を読んだり、同じ題材の作品を比べて読む活動等を通して、児童自身が文章内容や文章表現の面白さに気づけるよう授業改善を行います。また、読書活動支援員の有効的な活用を図ります。

(2) 算数

《概要》

★「図形」についての領域は全国値を上回っている。そのほかの領域はすべて全国値を下回っている。

《各領域における成果と課題》

数と計算

全国値を下回っている。

- ・棒グラフの読み取りはでき、全国値を上回っている。
- ・加法と乗法の混合した整数と小数の計算することに大きな課題がある。
- ・計算の仕方を解釈して適用したり、発展的に考察したりすることに課題がある。

量と測定

全国値を下回っている。

- ・示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を言葉や数を用いて記述することに課題がある。

図形

全国値を上回っている。

- ・台形について理解している。
- ・図形の性質や構成要素に着目し、図形をずらしたり、回したり、裏返したりすることで、ほかの図形を構成することができ、全国値を上回っている。

数量関係

全国値をやや下回っている。

- ・目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことはでき、全国値をやや上回っている。
- ・場面の状況を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、得られた結果から判断することに課題がある。

◇算数科における成果と今後の指導改善点

数量の大小を判断し、判断の理由を説明する問題において、無回答が無く、正答率も全国値を上回る結果となった。これは算数科授業において、自分の考え方を書く活動を、継続して取り組んできた成果であると考えます。

「図形」領域においては、実際に図形を作成する体験活動を通し、じっくり取り組むことで、理解を深めてきたと考えます。

成果もみられましたが、課題も明確になりました。

「数と計算」領域に課題があります。計算をする際、その計算が確実にできるとともに、計算を能率的にするための工夫が重要です。基礎学力の定着を要します。

自分の考えは書けますが、数学的に記述(説明)する力に課題があります。理論的・発展的に考察して数学的に表現することが必要です。

上記2点を算数科における重点課題と考え以下の改善を図ります。

論理的な思考が身につくよう、授業において、児童が多様な考え方に触れていく機会をより一層つくっていきます。

児童の意見交流が活発になるよう、さらなる問題解決型学習の充実を図ります。

どの学年も数学的な思考力・判断力・表現力を育成するため、全学年で系統的な授業づくりに取り組んでいきます。

2 生活習慣や学習環境「質問紙調査」に関する結果

《教科・学習について》

国語科における意識を問う設問

★肯定的な回答が全国値を上回っている、またはやや上回っている。

全国値を上回っている設問

「国語の勉強は好きですか」

「国語の勉強は大切だと思いますか」

「国語の授業で学習したことは、将来、社会にでたときに役に立つと思いますか」

「国語の授業で学習したこと、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか」

「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか」

「国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか」

全国値をやや上回っている設問

「国語の授業の内容はよくわかりますか」

「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか」

算数科における意識を問う設問

★肯定的な回答が全国値を上回っている、やや上回っている
またはほぼ同じである。

全国値を上回っている設問

- 「算数の勉強は好きですか」
- 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」
- 「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」
- 「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」

全国値をやや上回っている設問

- 「算数の授業で学習したこと、普段の生活の中で活用できないか考えますか」
- 「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか」
- 「算数の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」
- 「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」

全国値とほぼ同じである設問

- 「算数の勉強は大切だと思いますか」
- 「算数の授業の内容はよくわかりますか」

《学習環境・生活環境について》

「学校に行くのは楽しい」では、全国値を上回っている。
「学校のきまりを守っていますか」では、全国値をやや下回っていて課題がある。
「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」では、全員が肯定的な回答である。
全国値を上回っている。
「人が困っているときは、進んで助けていますか」では、全国値を上回っている。

「自分にはよいところがあると思いますか」では、全国値をやや上回っている。
「将来の夢や目標をもっていますか」では、全国値を下回っている。
「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことはありますか」では、全国値とほぼ同じである。
「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では、全国値を上回っている。

「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか」では、全国値を下回っている。
「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の両方が、全国値を下回っていて、課題である。

「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の設問では、全国値を下回っている。

「学校の授業時間以外に、普段(月～金)1日あたりどれくらいの時間勉強しますか(学習塾や家庭教師等に教わる時間を含む)」では、1時間より少ないという消極的的回答が多く、そのうち全くしないという回答もあり、課題がある。

「読書は好きですか」の設問では、肯定的な回答が全国値とほぼ同じである。

「学校の授業時間以外に、普段(月～金)1日あたりどれくらいの時間読書を読みますか(教科書・参考書・漫画本や雑誌は除く)」では、全くしないという回答が最も多く、30分より少ないという消極的的回答も多く、課題である。

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」では、全国値を下回っているが、「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えたことがある」では、全国値をやや上回っている。

3 今後の取り組み

国語科においては、児童が興味関心を持ち、意欲的に学習に向かう力を育むため、授業改善を図ります。
課題である「聞く・話す・書く・読む」の力については、教科を問わず重要な力です。授業の中で話し合い活動や書く活動、発表の機会を増やし、言語活動の充実を図ります。

算数科における問題解決型学習の充実を図ります。
丁寧なノートの使い方指導や体験活動が理解につながりました。今後も継続して行います。

道徳科の授業や学校生活全般を通して、きまりを守ることの大切さを考えさせるとともに、規範意識を高め、生活の中で活かしていく力を育みます。

多様性教育を柱に、教育活動全体を通して、自尊感情や人権意識を高め、いじめを許さない仲間づくりをめざしてきました。一定の成果があらわれてきたと感じています。今後も友だちとともに学び合い、喜び合う素晴らしさを実感させ、豊かな心・思いやりの心を育みます。

家庭学習の習慣が身に付くよう、ご家庭と連携しながら「学びに向かう力」の育成を図ります。また、活字に慣れ親しみ、文章内容や文章表現の面白さに気付くように読書活動の推進を図ります。